助産師掘り起こし、技術向上へ

研究内容を公開

岡山大大学院が新事業

岡山大大学院保健学研究科は、休職中の助産師の掘り起こしや現職のスキルアップを目的に、研究内容を教材として広く公開していく事業に乗り出した。登録者を募って資料を貸し出すほか、学内の公開セミナーを案内したり、その内容をまとめた動画をインターネットで見られるようにする。（阿部光希）

6月末から56人が登録。助産師以外に保健師や子育てグループのメンバーも対象とし、虐待など出産・育児に関するさまざまな問題に対応できる人材育成を目指す。

超音波検査や新生児の蘇生方法など周産期医療の専門的な内容に加え、助産師が通常の教育課程では学ばない教材も用意。不妊症や不育症で悩む人への接し方や、泣きやまない赤ちゃんを揺らして脳や神経に損傷を与える「シェイクンベビーシンドローム」の防止といった同大が過去に行った公開セミナーの動画配信などを行う。

こうした教材は今後、タブレット端末やスマートフォン（多機能携帯電話）からもアクセスできるようにし、自宅や職場で気軽に勉強できる環境を整える。

さらに、同研究科では登録者たちが集まって情報交換できる「たまり場」も学内に設ける予定。助産師、保健師、子育てグループなどが自然な形で連携を深められるようにする。

事業を進める同研究科の中塚幹也教授（生殖医学）は「お産とその周辺の問題が多様化する中、支援する側にもさまざまな知識や経験が求められる。地域の支援体制を充実させる一助になれば」と話している。

セミナーの動画配信も

▲「シェイクンベビーシンドローム」を防止するための講座で人形を持つ受講生

児島湖流域で5600人清掃活動

ごみ27トンを収集

県と児島湖流域6市町などでつくる同流域環境保全対策推進協議会（会長・古矢博通副

郡）そばの会場には330人が集合。火ばさみや熊手を使って草むらなどに落ちているペットボトル、空き缶、発泡スチロール、木片などを拾い集めた。

父親と初めて参加し

LED電球信

8割以上「

県警、ドライ

県警は岡山市内3カ所の交差点で、信号機の電球をLED（発光ダイオード）電球に交換して行った見やすさの実証実験結果をまと

実証実験のため、県庁たLED電球信号機